

市原市立三和中学校

1 学校の紹介

(1) 学校教育目標

「状況判断ができる 優しく逞しい生徒」

- めざす生徒
- ・すすんで学ぶ生徒
 - ・優しく、思いやりのある生徒
 - ・元気で、逞しい生徒

(2) 学級数 8学級(1学年2学級 2学年2学級 3学年2学級 特別支援2学級)
生徒数 188名

(3) 地域の概要

本校は、市原市のほぼ中央に位置している。小湊鐵道の沿線で、田畑に囲まれた山里の風景が続く静かな地域である。ゴルフ場が多くあるため、週末や大型連休の日には県外から数多くの方が訪れている。また大きな大会が行われるときは、多くのギャラリーが集まっている。かつては純農村地帯であったが、昭和40年代以降、東京湾が埋め立てられ、臨海部に工場等企業が進出してきた事に伴い、兼業農家が増加し、現在は保護者のほとんどが会社員等、サラリーマン家庭となっている。千葉市に隣接している地域や、沿岸部で宅地造成が行われている地域は人口は増加しているが、三和中学校学区やその他の地域では人口が減少しており、生徒数も減少している。

子どもの教育について、熱心な地域で、学校の行事や登下校の安全についても協力的である。奉仕作業や資源回収、体育祭や文化祭は、在学中の保護者だけでなく、地域の方々の力添えが多くある。

子どもたちを、家庭で「育て」、学校で「鍛え」、地域で「磨く」

家庭と学校と地域の連携により、学校経営が成り立っている地域である。

(4) 本校の校内研修

研究テーマ 「学力の向上を目指した授業の工夫」

～読書・言語活動を取り入れた授業を通して～

研究推進の重点

- (1) 国語力を大切にした指導
- (2) 教科部会・日々の授業の充実

2 自校の図書館の現状

本校は、数年前まで教育困難な時期が続き、図書館の開放ができない期間があった。従って、図書館の利用も各教科での図書館の利用も消極的であった。その後、生徒の意識の変化や、生徒総会での各委員会の提案により、図書室の開放が週1日から行われるようになった。しかし、本の状態も劣悪化しており、蔵書の見直し作業に費やされた。現在は、

図書館指導員も週1日ではあるが入っていただけるようになり、図書館としての機能が果たされるようになってきている。環境整備が行われ、図書館の環境も向上している。

平成24年度に市原市は図書館管理のオンラインシステムを開始し、整備が進んでいる。平成25年、校舎の耐震工事に伴い、新しい本棚も設置され、図書室の環境も整備された。また、生徒からの図書室解放日を増やしてほしいという要望が出されるようになり、現在は週三回、1回につき貸し出しは3冊までの条件で行っている。図書室の開放日が増えたことにより、貸し出しの冊数も増加しているが、蔵書数の増加については、これからの課題である。

平成26年度末学校 図書館の蔵書冊数	4751冊	学校図書館図書標準の 達成状況	65%
-----------------------	-------	--------------------	-----

3 学校図書館担当教諭（図書主任）の取り組み

（1）校内組織と主な役割

全校で2名、学習委員会担当の教諭がいる。学校事情により学校司書教諭が直接的な運営をしておらず、助言等にとどまっている。小規模校であるがゆえに、生徒会活動としての図書館運営は、学習委員会として運営をしている。

（2）子どもや教諭に関する支援

①図書館の運営に関すること

・整備と管理

学習図書委員会担当職員と図書館指導員、国語科、学習図書委員の生徒と連携し、整備・管理を行っている。本の購入については、生徒や職員から購入希望をとっている。

・図書館利用のガイダンス（図書館探検）

本年度より4月に図書館指導員と連携し、1年生を対象とした「図書館探検」の活動を授業として行っている。中学校の図書館に親しませ、図書館を正しく利用する態度を身につけることを狙いとした。事前に図書館指導員と打ち合わせをし、授業展開を決定した。図書館の使い方、十進法に従ったラベルの見方、本が体系的に並べられていることを学んだ。また、三和中学校の図書館の歴史について国語科教諭から説明を加えた。また、前年度の1年生が作成した「中学生になったら読んでほしい本」の紹介カードを示した。この紹介カードを中心として、図書館のディスプレイの一つとして、本とともに展示されている。最後に全員に本の貸し出しを行って終了した。

本年度も現1年生が、来年度の新入生に向けて、「中学生になったら読みたい本」の紹介カードを作成した。



【新入生に本の紹介をしよう 1年生】



【新入生に本の紹介をしよう 1年生】

② 読書推進活動のこと

・朝の読書活動

本校では午前8時10分から午前8時20分までの10分間を朝読書の時間と位置づけている。朝読書の習慣はできており、一日を落ち着いた雰囲気の中でスタートすることができている。朝読書の本は、自分で用意することになっている。職員も同じ時間、場所を問わず朝読書をすることを推奨している。



【朝読書の様子 3年生】



【朝読書の様子 2年生】

朝読書の仕方については、全校で行う取り組みなので、職員内で共通理解を図り、実践をしている。同時間、職員室も朝の読書を行っている。朝の読書については、本校に着任した職員にも同一歩調で行いたいため年度当初、確認事項を共有している。

・図書便り（図書館指導員）の発行

図書館指導員が定期的に発行している。おすすめの本やイベントの内容など、生徒の目線で構成されており、図書館利用の推進となっている。今年のイベントとしては「三和中が選ぶ、ベスト オブ 修造語」を行った。



【 図書便り「図書館へ行こう！」と投票結果掲示物 】



【 本の紹介ディスプレイ 】

・学習委員会の活動

本校は生徒の減少により図書委員会がなく、学習委員会が図書館の開放に携わっている。

{通常活動}・・・毎週月・水・金 の昼休みの本の貸し出し

水曜日は図書館指導員が在駐しているので、午前中の休み時間クラスで図書の利用を呼びかける。(貸し出しの促進、延滞者への声かけ)

{期間活動}・・・新刊本の紹介・ミニビブリオバトルの開催・読書週間の設定

③ 教員に対する支援（校内研修）のこと

図書室を活用した言語活動を展開するためのきっかけとして、千葉市立土気南小学校の積田明雄校長先生をお招きし、校内研修を行った。

- ・読書時間が長いから、教科学力が高いとは限らない。
- ・調べ学習に焦点を当ててもよい。目に見えて可視化できるものを作り達成感のあるものを作らせる。
- ・選書については、各教科で購入計画をたて、その計画に沿って購入してみるとよい。
など、ご助言をいただいた。

(3) 総合的な学習・プロジェクト学習での調べ学習（三和生き物調査隊）

- <手順> ①フィールドワークに出て写真を撮る
②帰ってきて図鑑で調べて種類を特定する
③生態の本から図鑑に必要な本を探してまとめる。



図書館指導員と事前に打ち合わせを行い、図鑑を集めていただいた。インターネットに頼るのではなく、活字や写真を見ながら検索することで、時間をかけて調べを進めることができた。その中で、どうしても見つからないカエル（ニホンアカガエル）があり、博物館に問い合わせたところ、絶滅危惧種であることが判明した。自分たちの住む環境の中に、絶滅危惧種が生息していたことに驚異を感じ、生徒たちも自分たちの調べたものが、研究の中で成果をあげたことに充実感を持つことができた。この研究は文化祭で発表され、「三和生き物図鑑」として展示された。

4 成果と課題

- ・学習委員会や図書館指導員が推進活動を行うことで、図書室の利用が増加している。返却率も昨年度は100%であった。
- ・授業で図書館を利用することは、普段図書室に足を運ばない生徒にとって、本を手に入るよい機会となった。
- ・イベント的な行事は生徒の関心も高まり、図書室を利用するきっかけとなった。
- ・国語辞典を常に手元におき、調べた単語に付箋をつけるを小中連携で実施できていることで、児童生徒が自分の成果を見ることができている。
- ・蔵書の達成率が低いので、蔵書を増やしていきたい。
- ・図書館を活用した授業については国語科に偏ることが多く、他教科でも図書館の活用ができるような研修をしていきたい。
- ・生徒の読書傾向は自分の好みに偏りがちである。幅広いジャンルの本を紹介する機会を設けるなどし、知識を生徒の知識を深めたい。

2年A組国語科学習指導案

教諭 下山知子
場所 図書室

1 単元名 「夏の葬列」を使ってリテラチャー・サークルをしよう

2 単元について

(1) 基礎・基本のとらえ

目標；文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力を高めるとともに、文章構成を工夫してわかりやすく書いたり、発表する能力を高める。

内容；C（1）アー1物語を読み、内容や表現の仕方について感想を交流する言語活動を通じた指導を行う。

(2) 発展的なたらえ

- ・感想を交流するために、登場人物の言動や意味などを捉え、また描写や表現技法について考えをまとめることができる。
- ・言語活動を通して自分の言葉を的確に相手に伝える方法や手順を会得する。

(3) 題材観

- ・現在、中学生が日常的に使用している言語は、残念ながら豊かな人間関係を構築するものとはなっていない。国語科として生徒に豊かな言語活動を日常的に行い、言葉の力を高めていく学習を行う必要性を強く感じる。

「求められる力」は「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」ではあるが適切な言葉を的確に相手に伝達できなかつたり、自分の考えた思考を的確な言葉で文章に表すことができない生徒や実際に苦手意識を持つ生徒が多いのが現状である。

「夏の葬列」は本来ならば、戦争の悲惨さ、また生徒に対してこれからどのように平和と向き合えばよいのか等の思考的な作品として扱われることが多い。今回は教科書としてではなく、本として作品を扱い、読書指導の一つリテラチャー・サークルとして取り上げてみた。自分としても初めての指導となるので、不安要素もあるが、生徒とともに学んでいきたい。

今回のリテラチャー・サークルでは、個人個人が役割を持つことで言語についての意識を高める授業を目指し、仲間達とコミュニケーションを取ることでお互いの考えを読み取るとともに、相手の意見を尊重し、自分の見方や考え方を広げていくことを目指したい。多読をさせ、その中から作品を選定する本来のリテラチャー・サークル実施の足がかりとしたい。

3 生徒の実態 男子18名女子19名（合計37名）

<国語に対するアンケート> 1名欠席

1 あなたは国語の授業は好きですか。

好き 7名	どちらかという好き 22名	嫌い 0名	どちらかという嫌い 7名
-------	---------------	-------	--------------

2 国語の次の6項目のうち得意順に1から6をつけてください。

	項目	順位
1	授業をしっかりうけること	
2	自分の意見をしっかり発表できること	
3	他の人の意見をしっかり聞き取れること	
4	作文や文章・論旨を書けること。	
5	テスト等の問題の意味を理解し解くこと	
6	漢字や文法を正しく理解し覚えること	

- 1 忘れ物をしない。ノートをしっかり取る。提出物がしっかり出せるなど。
- 2 手を挙げて発表する。
★先生や他の方法で一律に当たったりすることはのぞく。
- 3 他の人が発表している内容をしっかり聞き、何をいつているのかを理解できる。

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
1	21	6	2	4	2	1
2	2	3	2	1	12	16
3	3	17	6	6	4	0
4	4	1	8	6	6	11
5	0	6	11	12	6	1
6	7	3	6	8	6	6

3 あなたは話し合い活動が好きですか。またそれぞれの理由を書きなさい。

好き	29名	理由	他の人の意見が聞ける。自分が気づけなかったことに気づける。友達と考えるのが好き。みんなで何かするのが好き。自分の考えに自信が持てるから。
嫌い	7名	理由	面倒くさい。一人だけ黙ってしまいそうだから。よくわからないから。得意でないから。

4 あなたは本を読むことは好きですか。

好き	29名	理由	集中できる。いろいろなジャンルを読める。おもしろい。好きな作品がある。本の世界にはいれる。ストーリーや心情の変化の読み取り。
嫌い	7名	理由	本が嫌い。話が長い。楽しくない。

5 国語は自分の生活の中で必要だと思いますか。

必要 21名	どちらかと言えば必要 14名	どちらかと言えば不必要 1名	不必要 0名
--------	----------------	----------------	--------

アンケート結果より、受動的に行うものについては、得意と考える生徒が多い。しかし、自分の考え話したり、文章を作成する能動的な活動は自信がないことがわかる。本を読むことは朝読書を実施したり、図書室の開放もしているので、比較的定着しているように思う。1年次より辞書を活用しており、一人1冊手元に置き、わからない語句や調べた単語に付箋を貼り、使える語彙を増やすことを実践している。本年度も5月から7月まで実施した。また、言語活動を取り入れた授業を意識し、少人数での文章作成や、作文指導も行っているが、なかなか枝葉まで届いていないのも現状である。辞書を使用することで、今まで簡単にひらがなで書いてあった文が漢字を交えて書けるようになったりと進歩が見られる。また小中連携においても、小学校から辞書の使用をしており、小中一貫した学習体制が整いつつある。クラスの様子としては、男子が発表等に意欲的に取り組む。女子は自分から進んで出ることはないが指名したりすれば、正しい答えを導き出していることが多い。全体としては集団の力を向上させようとする意欲が見られるクラスである。身体に先天性の病気を持っている生徒が多く、細かな面での個人的配慮の必要な生徒が在籍している。

(4) 本教材で育てたい力

- ・自分に与えられた役割を理解し、課題に沿った活動をすることができる。
- ・聞き手にわかりやすく話をするための手順や方法を考え、書くことができる。
- ・他の人の話を聞いたり、コミュニケーションを取ることで作品の内容の読み取りを深める。
- ・図書館の本を利用し、教材の内容の読み取りを深める事ができる。

4 教科の課題と授業の関連

(1) 教科の課題

「辞書を活用した実践的語彙力の向上」から、辞書や国語便覧を使い、より豊かな言語活動をめざす。

(2) 本実践との関連

辞書を使い、役割シートの解決に向けて使用する。

5 題材の達成目標

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・自分の課題について意欲的に取り組もうとしている。	・自分の考えをまとめ、話すことができる。	・作品の内容を課題に沿って読み進めることで理解を深めることができる。	・難解語句の解決にむけて辞書などを使用する。
・話し合い活動に意欲的に取り組んでいる。	・仲間の話をよく聞きその内容を理解しようとしている。		

6 題材の指導と具体的な評価規準

課程 時数	学習内容と活動	具体的な評価規準・評価方法
第1次	○リテラチャーサークルについてどのような活動なのか理解する。 ○作品を読み、課題解決と次時の発表に向け各自準備をする。	◎自分の課題を理解し、次時の発表に向けて取り組んでいる。 (関心・意欲・態度) (書く能力) (読む能力) (言語についての知識・理解・能力)
第2次	○それぞれのグループで読書会を行う。 ○他の人の話をよく聞き、話し合い活動を行う。	◎自分の意見をわかりやすく説明している(話す能力) ◎相手の話をよく聞き話し合い活動に参加し、作品理解が深まっている。 (話す・聞く能力) (読む能力)

7 本時の指導(2/2)

(1) 本時の観点別目標と評価規準

- 「夏の葬列」を題材とし、読書会(言語活動)を行う。
 - 物語を読み、内容や表現の仕方について感想を交流する言語活動を通じた指導を行う。
- C(1)ア-1
A;自分の課題をしっかりと発表し、他の人の発表から生まれた、疑問点について意欲的に協議することができる。
B;作品の内容を理解し、相手にわかりやすく説明することができる。

(2) 展開

課程時間	学習内容と活動	指導と◇生徒への手だて	評価規準<方法> *資料
導入 5分	・本時の目標と流れを確認し、各自が学習課題を持つ	・前時の各自の取り組みと本時の流れを説明する。	ワークシート 配布済み
学習課題;「夏の葬列」を使ってリテラチャーサークル(読書会)をしよう			
見出す	・順番に従って発表を行う。1つの役割シートが終了したら、その課題についての	・話し合い活動が円滑に進むようアドバイスをする。	*ワークシート *国語便覧

40分	<p>話し合い活動を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> (1) 思い出し係をめぐる話し合い (2) 質問係をめぐる話し合い (3) 照明係をめぐる話し合い (4) イラスト係をめぐる話し合い </div> <ul style="list-style-type: none"> ・発表した生徒についての質問や自分の意見を全員が言えるようにする。 ・お互いの意見を否定しない。 ・本文より引用する場合は必ずそのページと行を役割シートに記入する。 ・班長の司会に従い、各係の発表に対しての自分の意見を言う。 	<p>◇必要なことはワークシートにメモをさせる。(書く)</p> <p>◇グループによって時間的に差が生じる場合があるので適宜配慮をする。</p> <p>◇お互いの意見を尊重し、否定しないようにアドバイスをする。</p> <p>◇机間巡視をし、各班の進行状況を把握する。</p>	<p>*辞書</p> <p>ワークシートの手順に従って、書き進める事ができる</p> <p>A ; 自分の課題を発表するだけでなくグループの話し合い活動に意欲的に参加している。</p> <p>B ; 自分の課題をグループで発表し、仲間の発表の内容を理解することができる。</p> <p>Cへの手だて</p> <p>グループ内で出た内容について、メモを取ったり、教科書に線を引いたりするように支援をする。</p>
5分	<p>まとめと次時の予告</p> <p>リテラチャー・サークルを学習しての感想を書く。</p>	<p>◇どのようなことを学ぶことができたか振り返りをさせる</p>	

8 板書計画

4	3	2	1	発	課
イ	照	質	思	表	題
ラ	明	問	い	順	
ス	係	係	出		読
ト			し		書
係			係		会
					を
					し
					よ
					う

資料1 役割シート (生徒には書き込めるワークシートを配布)

思い出し係

思い出し係の仕事は、本と「あなた」をつなげることです。本に書かれていることで、思いついたこと、気がついたことを挙げてください。自分の経験、人の経験、他の本や新聞に書いてあったこと、テレビで見たこと、思い浮かんだ創造、ファンタジー、何でもOKです。読んでいて「そういえばこんなことがあった」「にたようなことを経験したな、読んだな」「こんなことを連想した」などです。

質問係

質問係の仕事は読んで字のごとし、質問をすることです。読んで疑問に思ったり、理解できないと思ったり、違うのではないかと思ったりしたところを書き出してください。文意、作者の意見、登場する人の意見や行動、お話の展開の仕方など、なんでもOKです。

選び出し係

選び出し係は、優れた表現を見つけだす係です。読んでいて、すばらしいと感じたところ、うまい、おもしろい、かっこいい、たくみだ、深い、などと思ったところを選び出してください。

基本的に1つの文章で。やむを得ないときは、文章が2つないし、3つくらいにわたってもいいです。

イラスト係

イラスト係の役割は、本の中から自分の好きなことや好きな場面、感動した場面などを絵にすることです。文章から思い浮かぶ映像的なこと、場面、設定、登場人物など。なんでもいいから絵にしてください。ただし、上手な絵を描いてほしいということではありません。

絵をほかの人たちに見せるときに、何も言わずに絵を見せてください。ほかの人たちになにを描いたのか当ててもらいます。絵を描くには、この紙の下のスペースを使ってください。もっと描きたいときは、裏側を使ってください。

【読書会】の進め方

1、思い出し係をめぐる話し合いの仕方

思い出し係がシートに書いた「思い出したこと」を順番に披露します。どうしてそんなことを思ったり、考えたりしたのかも説明しましょう。

思い出し係の発表が終わった後、他のメンバーの思い出したことを話し合います。

2、質問係をめぐる話し合いの仕方

質問係がシートに沿って読んで出てきた質問や疑問を紹介します。理由や自分なりの答えがあったらそれも紹介しましょう。

質問係の発表が終わったら、ほかのメンバーの疑問や質問も出し合ってみましょう。

3、照明係をめぐる話し合いの仕方

照明係は、本で本で印象に残った所にスポットライトをあてる係です。引用した文章を読み上げ、取り上げた理由を述べてください。文章が披露される度に話し合います。

照明係の発表が終わった後に、他のメンバーからも「感動した部分」「うまい表現」などを出し合います。

4、イラスト係をめぐる話し合いの仕方

イラスト係は、本からイメージした絵を描いて、何も説明しないで描いた絵を見せます。見せられたメンバーは、それが本のどの部分について描かれたものかを話し合います。

絵が何枚かあれば順番にみて、話し合います。

その後で種明かし。イラスト係は何を描いたのか、どうしてこんな絵になったのかを説明してください。それについてまた話し合います。何が描かれていないのかにも注目してみてください。「じぶんなら、こう描くだろう」という意見もあることでしょう。他のメンバーが「絵にしたいと思った部分」についても話し合います。

朝の読書

【職員用資料】

1 朝の読書の実施方法

基本的に全校一斉で毎朝実施し、大事なことは先生方も教室で一緒に読むことです。次の4原則が基本となります。

(1) みんなでやる 先生も読む

生徒と教師全員が同じ時間に同じ条件で取り組む公平さが基本

(2) 毎日やる

1日10分という短い時間でも、毎日行うことで生徒の読む力を育む

(3) 好きな本でよい

読む本を子ども自身に選ばせることは自分発見につながり主体性を育む。

(4) ただ読むだけ

感想文や記録は求めない。本を読んでいるときの楽しく充実した思いを大切にす。

※ 全職員がそれぞれの持ち場で、生徒と同じ条件で一斉に読むことが理想的です。読書中に話しかけたり、指導を加えたりすることはいけません。

「読ませる」のではなく「読む環境を整えていく」ことが大切です。

2 生徒への指導

『朝の読書』は基本的に生徒の自主性に委ねますが、本を選べない生徒、本を読まない生徒への対応は、読書以外の時間帯に応援する姿勢で声をかけることも必要です。折りにふれ、教師が自分の子ども時代の読書体験等や本の魅力について自分の言葉で語ることも効果があります。遅刻者にはその場で注意をせず、速やかに読書に参加させ、後で指導を行ってください。私語をしたり物音を立てたりする場合は即座に注意を促す必要があります。